

初回シリーズの新型コロナワクチン接種後の感染状況

新型コロナワクチンの接種が進む一方、オミクロン株の感染拡大もあり、2回目接種をした者の感染者数が増加している。

ワクチン接種歴別の新規陽性者数 (1/24-1/30)

出典：第71回（令和4年2月9日）新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード提出資料

	未接種			2回目接種済み			接種歴不明
	新規陽性者数 (1/24-1/30の合計)	未接種者数 (1/30時点)	10万人あたりの新規陽性者数	新規陽性者数 (1/24-1/30の合計)	2回目接種者数 (1/30時点)	10万人あたりの新規陽性者数	新規陽性者数 (1/24-1/30の合計)
0-11歳	80,981	12,027,309	673.3				
12-19歳	21,730	2,154,436	1008.6	18,558	6,717,729	276.3	9,148
20-29歳	32,915	2,588,515	1271.6	36,297	10,090,869	359.7	14,305
30-39歳	25,000	2,873,837	869.9	33,294	11,377,699	292.6	13,332
40-49歳	20,461	3,040,648	672.9	35,439	15,281,502	231.9	12,668
50-59歳	11,903	1,506,181	790.3	23,576	15,235,648	154.7	7,700
60-64歳	3,330	671,888	495.6	7,504	6,719,007	111.7	2,501
65-69歳	2,467	908,870	271.4	6,013	7,170,724	83.9	1,891
70-79歳	4,148	938,448	442.0	9,752	15,244,412	64.0	3,188
80-89歳	2,677	207,412	1290.7	5,702	8,808,931	64.7	2,184
90歳以上	1,244	67,107	1853.8	2,263	2,299,033	98.4	928

- ※ HER-SYSに登録されている新規陽性者を、不明を含むワクチン接種歴の有無で分けて集計し、報告日における新規陽性者数の7日間の合計を算出。(データは1月31日参照。データは日々更新され、今後最新のデータが反映される。)
- ※ HER-SYSに年齢情報がない者は含まれない。
- ※ HER-SYSデータに日本最高齢(令和4年1月31日現在)を上回る年齢で届出があった者はいずれにも含まれない。
- ※ 新規陽性者には無症候感染者も含まれる。
- ※ 10万人あたりの新規陽性者数は、7日間の新規陽性者数の合計を期間の最終日(1/30)のワクチン接種の有無で分けた人数で割り人口10万人対に換算したものであり、結果の解釈には留意が必要。
- ※ ワクチン接種者数は、ワクチン接種記録システム(VRS)に報告されている報告データに基づき算出。(データは2月1日参照。データは日々更新されるため、接種から記録されるまでにはタイムラグがあり、今後最新のデータが反映される。)
- ※ 未接種者数は各年代の人口の総計から接種済みの人数を引いて算出。また、年齢階級別人口は、首相官邸ホームページの公表データを使用(総務省が公表している「令和3年住民基本台帳年齢階級別人口(市区町村別)」のうち、各市区町村の性別及び年代階級の数字を集計したものを利用しており、その際、12歳~14歳人口は10歳~14歳人口を5分の3したものを使用。)

既感染者への新型コロナウイルスワクチン接種に関する諸外国の対応状況(1/2)

既感染者に対する追加接種に関して、米国、カナダは感染後にも追加接種を推奨し、フランス、ドイツは感染後3か月以上経過後に追加接種可能としている。英国、イスラエルは初回シリーズ・追加接種を区別せず、感染後も接種し得るとしている。

国/機関	基本方針の 発出機関	既感染者に対する新型コロナウイルスワクチン接種に関する基本方針 (2月1日現在)	基本方針の論拠(例示的)
 米国	CDC	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ及び追加接種：既感染者に対しても、症状が収まり、隔離の条件が満たされた場合において、接種を推奨。なお、感染とワクチン接種の最適な間隔について方針を発出するにはエビデンスが不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> 以下に関してエビデンスが存在する <ul style="list-style-type: none"> 既感染者にもワクチンを安全に接種できる 既感染者の再感染リスクは低い、免疫が経時的に逡減し、リスクが上昇する可能性がある 既感染者に対する接種により、免疫反応が上昇し、変異株に対しても再感染リスクを更に下げる
 英国	UKHSA	<ul style="list-style-type: none"> 既感染者はワクチンを接種し得る。感染した者は発症から4週間以上経過後まで、無症状の場合は最初に陽性が確認されてから4週間以上経過後までは、ワクチンの接種を延期すべき(初回シリーズ・追加接種の区別なし) 	<ul style="list-style-type: none"> 現段階で既感染者に対するワクチン接種による安全性への懸念がない 自然感染により得られた抗体の持続期間とワクチン接種を通じてより強固な予防効果が得られるか明らかではない
 カナダ	NACI	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ及び追加接種：既感染者も接種をすべき。接種会場での感染を防ぐため、接種者は、急性症状が完全に消失し、感染させるおそれがないことを接種前に確認すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 既感染者への予防接種は、自然感染のみと比べてより強力で長期間持続する予防効果が期待できる 既感染者に対する2回目接種の副反応は、初回接種と同様か、それより少ない
 フランス	保健省	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ：既感染者も症状が収まってから2か月以上経過後にワクチンを1回接種し得るが、2回目接種の要否は医師との面談を基に判断される。1回目接種が完了し、PCRまたは抗原検査による陽性確認がみられた者は、2回目接種まで2-6か月空けるべき 追加接種：初回シリーズ接種後に感染した場合、感染から3か月以上経過後接種可能 	<ul style="list-style-type: none"> (初回シリーズについて) 特にデルタ株やオミクロン株に対して、ワクチンによる免疫は接種完了後数か月で逡減する傾向がある

既感染者への新型コロナウイルスワクチン接種に関する諸外国の対応状況(2/2)

既感染者に対する追加接種に関して、米国、カナダは感染後にも追加接種を推奨し、フランス、ドイツは感染後3か月以上経過後に追加接種可能としている。英国、イスラエルは初回シリーズ・追加接種を区別せず、感染後も接種し得るとしている。

国/機関	基本方針の発出機関 既感染者に対する新型コロナウイルスワクチン接種に関する基本方針 (2月1日現在)	基本方針の論拠(例示的)
 ドイツ	保健省 <ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ： <ul style="list-style-type: none"> 既感染者に対して、初回シリーズとしてのワクチン接種は1回で十分である 既感染者のうち、有症状の者は症状が収まってから4週間以上経過後に1回のワクチン接種を、無症状の者は陽性が確認されてから4週間以上経過後に1回のワクチンを初回シリーズとして接種し得る 追加接種： <ul style="list-style-type: none"> 接種回数にかかわらず、ワクチン接種後に感染した者は、感染3か月以上経過後に追加接種可能 1回目接種前に感染し、その後ワクチンを接種した者は、前回の接種から3か月以上経過後に追加接種可能 	<ul style="list-style-type: none"> 感染後数か月の再感染リスクは低い、時間経過と共にリスクが上昇する可能性がある
 イスラエル	保健省 <ul style="list-style-type: none"> 既感染者は、回復後又は血清学的検査陽性から3か月以上経過後から接種し得る(初回シリーズ・追加接種の区別なし) 	<ul style="list-style-type: none"> (記載なし)
 国連	WHO <ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ：既感染者もワクチン接種を受け6か月以上経過後まで遅らせるべき。既感染者は検査による陽性確認から接種を遅らせることも考えられる (追加接種に関しては、記載なし) 	<ul style="list-style-type: none"> 感染による予防効果は人によって大きく異なる 自然感染後にワクチン接種で得られる免疫は一貫してとても強力である 感染後にワクチンを接種することで、より長期間に効果を期待できる
 EU	ECDC <ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ：既感染者に対してもワクチン2回接種を推奨 (追加接種に関しては、記載なし) 	<ul style="list-style-type: none"> 再感染はまれではあるものの発生する 感染後自然免疫がいつまで持続するのかが明らかではなく、感染後6か月以降について結論を出すことができない

ブレイクスルー感染後の抗体価の推移について

新型コロナワクチンの初回シリーズ接種後にブレイクスルー感染した者の感染2か月後のオミクロン株に対する中和抗体価は、追加接種10日後の中和抗体価と同程度であったとの報告がある。

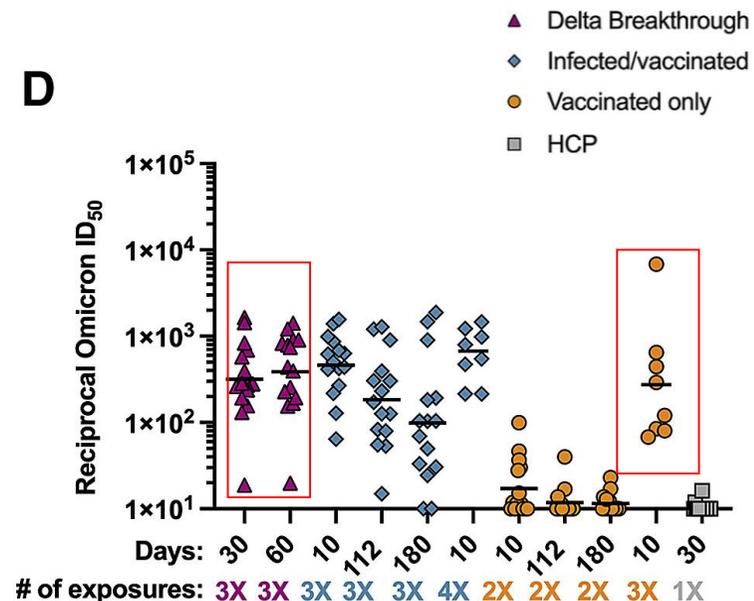
Walls AC et al¹ (Cell, 2022)

研究内容：米ワシントン大学で実施されているコホート研究※1から、以下4グループに該当する参加者を組み入れ、オミクロン株に対する中和抗体価を比較した研究。

- 初回シリーズ接種後※2にデルタ株に感染した群 (15名, マゼンタ)
- 2020年に新型コロナウイルス感染後に初回シリーズの接種・追加接種※3を行った群 (15名, グリーン)
- 初回シリーズの接種・追加接種※4を行った群 (15名, オレンジ)
- 2020年に新型コロナウイルスに1回感染した医療従事者群 (15名, グレー)

結果：新型コロナワクチンの初回シリーズ接種後のデルタ株ブレイクスルー感染30日後及び60日後のオミクロン株に対する抗体価は、追加接種10日後の抗体価とほぼ同等であった。

オミクロン株に対する中和抗体価



※1 Hospitalized or Ambulatory Adults with Respiratory Viral Infections (HAARVI) longitudinal cohort study

※2 ファイザー社ワクチン、モデルナ社ワクチン、ヤンセン社ワクチン、アストラゼネカ社ワクチンのいずれか

※3 ファイザー社ワクチン、モデルナ社ワクチン、ヤンセン社ワクチンのいずれか

※4 ファイザー社ワクチン、モデルナ社ワクチンのいずれか